

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

【城東小学校区】園名（彦根市立彦根幼稚園）

【身体を動かして遊ぶ】 「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定

○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者の気付き・願い

【バス遠足】

○大型遊具遊びでは、自分なりに身体の使い方を考え、意欲的に取り組む。
○サーキット遊びでは、友だちと競いながら、一つ一つの遊具や障がい物にチャレンジすることを楽しむ。
○吊り輪をしっかりと握り、「ゆらゆらブランコ」「くるんで回れるで」など手や足を使っているいろいろな技に挑戦する。

【固定遊具・チャレンジ走】

○靴と靴下を脱ぐと登り棒をスルスルと登れることがわかり、何度も繰り返し登ったり下りたりし、上まで登る楽しさを味わう。
○ハードル遊びでは、バーの並べ方を工夫し、色々な方面から跳び越えられるように組み合わせをたり、遠くから走ってきて跳び越えたりして遊ぶ。
○巧技台からジャンプしたり、マットの上を立ち幅跳びしたりしながら自分がどこまで遠くへ跳ぶことができるのか挑戦する。
☆いつでも遊具にチャレンジしたり、選んで使えるように手の届きやすいところにミニハードルや巧技台を置いておく。
◎目的をもって繰り返し取り組む姿を認めていく。時には保育者も一緒に挑戦したり、競ったりして、意欲が高まるようにかかわる。
◎友だちががんばっていることに気付き、一緒に喜んだり応援したり、認め言葉をかけている姿を認めていく。

【身体を動かして遊ぶ楽しさを感じる】

○運動会でしたチャレンジ走の障がい物を好きな場所に置き、動かして遊ぶ。
○鉄棒や雲梯、上り棒、縄跳び、フープ等に自分なりの目標をもって挑戦し、できるようになった技を友だちや保育者に見せ、認めてもらうことで自信をもち、更に意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。
☆“ここまで頑張りたい” “ここまで頑張れた” が目で見てわかるようにカラーテープで印をつける。
☆繰り返し取り組む中で少しづつできるようになる嬉しさを感じたり、新しい目的をもって挑戦したりできるように、修行カード（チャレンジカード）やいろいろな技を示した掲示物などを準備しておく。
◎頑張っている姿などをみんなの前で紹介していくことで、保育者だけでなく、友だちにも認めてもらったり、友だちのよさに気付いたりできるようにしていく。
☆友だちがしていることに興味をもったり、明日の遊びがより楽しくなるように考えたりできるようにしていく。



こっちからも登れるよ！



忍者みたいにできるで！



ここはジャンプして玉を投げよう♪



はんぶんまでがんばってみる！！



手だけでも登れるんやで！

よ～し、負けないぞ！！

* “できた” を積み重ねることで自信につながり自分なりに身体を動かしたり、技を考えたりしながら思いっきり身体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。

* 近くに保育者の存在があり、自分の頑張る姿を認めてもらうことで繰り返しやってみようと思えたり、修行カード（チャレンジカード）を用意することで “この技をしたい” “ここまでがんばりたい” など自分なりの目標をもって意欲的に取り組んだりする。

* 友だちがしていることに興味が出てくることで、一人で取り組んでいたことを “友だちと一緒にしてみたい” “○○ちゃんみたいにできるようになりたい” という気持ちが出てくる。

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

◎環境構成 ☆保育者の援助・配慮

【城東小学校校区】園名（彦根市立東保育園）

◎自分なりにイメージを膨らませながら自由に描いたり、作ったりすることができるように様々な道具や材料を用意し環境を整えておく。
☆絵本やエプロンシアター、紙芝居など、様々な形でお話を楽しめるようにする。

●好きな遊びの時間に絵本作りをする子、お面を作っている子など一つの絵本から遊びを広げていく姿が見られた。

●「〇〇ちゃんはどんなことしてるかな」「〇〇くんは何を作っているんだろう」と個々で楽しんでいる遊びにも興味を持てるように保育士が関わっていけると、遊びが広がっていったのではないかな。

お客さんと呼んだら
もっと面白そう♪



絵本の世界から
遊びに繋がる経験

〇〇ちゃん、
本物のニワトリみたい！
ペープサートでの
お話遊び



私はイヌ役がしたいな

僕もブレーメンの
絵本を描きたい！

◎保育室の一角にお話遊びのコーナーを用意し、自由に表現したり、お話に触れたりすることを楽しめるようにする。
☆クラスで活動する時間に子どもがペープサートを使ってお話する機会を作るなど、友だちがしている遊びやブレーメンのお話に興味をもてるように機会を設けていく。

●自分たちで役割分担をして配役を決めたり、役を演じる子とお客さんをする子で分かれて遊びを楽しむ姿が見られた。

◎遊戯室など広い空間で自由に表現することを楽しめるようにする。

☆友だちの姿に興味をもったり、個々の表現を認めたりしながら楽しい雰囲気の中で活動が行えるようにする。

●友だちの姿を真似たり、「〇〇ちゃん上手」と認めたりしながらそれぞれが自由なイメージをもって楽しむ姿が見られた。

●広い空間で自由に表現遊びを楽しむ姿が見られた。保育者が誘いかけて一緒にやってみたり、友だちの表現に気付いたりできるように関わっていけると、よりクラス全体で活動を楽しむことができたと思う。

泥棒を驚かせるシーンを
やってみたい！

体を動かしてなりきり遊び



ネコってこんな感じ？

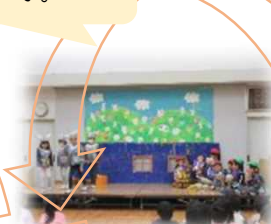
ブレーメンごっこ

マルチパネルで
泥棒の家を作ったよ♪



今日もっと大きな声で
セリフを言いたいな。

つきぐみの
劇遊びへ



発表会



たくさんのお客さんが
いて緊張するなあ・・・

泥棒の家やごちそうも作ってみたい！
何を使って作ったらいいかな？



◎お面を多めに用意しておき、興味をもった時に遊びに参加できるようにする。

●「もっとこんなものがあればいいのにな」「あんなことしてみたい」と友だちや保育者に自分のイメージを伝えながら遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。

園は指導を行う際に、
「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」を考慮

☆発表会までの日を子どもと一緒にカウントダウンしたり、クラスでの目標を考えたりしながら当日に向けて気持ちを高めていけるように関わっていく。

●発表会に近付いていくにつれ、「もっと大きな声でお客さんに聞こえるように話す」「まっすぐ立って歌った方がカッコいい」と見てくれるお客さんのことを考えながら、目標をもって劇遊びに取り組む姿が見られた。

保育者との信頼関係に 支えられた生活

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

【環境の工夫】

○夏の野菜が終わったことをみんなで確認した後、冬に向けてどんな野菜を植えたいか投げかける。
○後日にもう一度話し合う機会を持ち、出た案の中でどの野菜を植えることに決めるか相談する。
○子どもたちに野菜のイメージが付きやすいように、イラストを使って示す。

●後日に再度話し合う機会を設けたことで、子ども達が時期に合った野菜について園で調べたり、家庭で話すきっかけができた。

〈帰りの会で話し合い〉
夏の野菜が終わった畑に何を植えよう？冬の野菜は何があるかな？



（後日）お家で冬の野菜調べてきたよ！みんなで手をあげて多かった野菜に決定しよう！

○外遊びの時間に種まきを行うことを伝えておき、やりたい子ども達で行う。
○一度種の撒き方の見本と説明をした後は、子ども達同士で声を掛け合いながら行う。

〈外遊びで種を植える〉
人参ってこんなに種は小さいんだね！1人4粒ずつにしよう！そっと土をかぶせてね。



お水ってどれくらいあげたらいいのかな？りす組さん、そんなに溢れていたら種がおぼれちゃうよ！

人参ケーキ クッキング

【先生の関わり】

〈収穫〉
いろんな大きさの人参があるね。私のは足が生えるような形だよ！



〈本づくり〉
持ち物が書いてるよ。忘れないようにしないと！



〈各クラスで収穫した野菜をどうするか相談〉
カレーの中に人参が入っているね。クッキー作ったことあるよ！

〈当日の様子〉
僕のは水が多すぎたかな？私のが少なかったのかもしれない…でも焼いてみよう！



完成したら繋がって手を繋いでるようになったよ！美味しいね！

〈野菜の生長の様子〉
大きい人参になるように土をしっかりと固めるぞ！どれくらい大きくなったかな？（土を少し掘って見てみる姿）



○基本的には当番の人が野菜の水やりを行うと決めているが、外遊びの際にやりたい子が積極的に行っている。
○間引きや土を整えるなど、生長に必要なことは、帰りの会などで皆で確認する。

●当番が水やりを行っていないことなどに気付いた子が、声を掛け合う姿が見られた。

○本づくりでは、各クラス自己選択活動の中で取り組めるように準備した。
○振り返りのスペースを作ることで活動を思い返すなど、次の活動に繋がるようにした。

●色を塗ったり自分なりに工夫して取り組む姿があった。

○当日は、活動時間だけを部屋に掲示し、自分たちで本を認しながら移動するなど取組を進められるようにした。
○環境設定として調理の流れや用具の使い方が目で見てわかりやすいように配置した。
○いつもの給食の流れと同じようにホールにセッティングしたことで普段通り取り組めるように促した。

●60mLなど計るのに少し悩んでいる姿もあったが、周りのお友だちの姿を見ながら道具の使い方を知ることができた。
●生地の手触りなど様々だったが、それぞれの良さを認めて満足し合う姿があった。

●たくさんの子が畑の周りに集まったが、子どもたちが4種類の野菜からどの野菜の種を植えたいか声をあげ、担当を決めたことで、「この野菜は私が頑張る！」と責任をもって取り組めた。

②滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

◎環境構成 ☆保育者の援助・配慮を要する事項

【「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定】

☆子どもの思いやイメージを大切にし、具体的な表現や流れについて、見てイメージがわくよう黒板を使う。
◎CDデッキを準備し、実際に楽曲を流して曲に親しませる。

☆動きが合っていない様子が見られたら、身体の使い方やリズムの理解につながるように共に考えていくようにする。
◎全員が体を動かせる十分なスペースを確保する。

☆順番やポーズの変更を、納得のいくまで考え直し、演技に愛着をもてるようにする。
☆一人ひとりの思いに耳を傾け、必要に応じて曲を止めたり、リストバンドを作成したりして、より意欲的に取り組めるようにする。

☆今までのがんばりや友だちと気持ちを合わせていたことを誉め、自信をもって楽しんで参加できるように関わっていく。
◎借用しているグラウンドの小石を拾ったり、白線をひいたりして、安全に演技できるように配慮する。

運動会に参加

全体で合わせる

ポーズを変更する

ポーズや振り付けを考える

リズム表現について意見を出し合う。

お家の人が見に来てくれてうれしいな！

みんな手がそろってかっこいい。

合わせてみたら曲とずれてしまうなあ。

手をつないだらやりやすいかも。

海の生き物とかどうか。人魚とかは？

●曲を聴くことで、意見が出しやすい雰囲気となり、友だちの意見にも関心をもっていた。

●イメージを言葉にしたあと、表現するために必要な動きを子ども同士で考えていた。

●一人で移動するのが難しいと言った子どもに、一緒に移動しようと声をかける子どもの姿があった。

●子どもからの提案で、全員の右手に目印となるリストバンドを着け、自信をもって手を挙げられるようにする工夫ができた。

●当日は「恥ずかしいなあ」と言う子どももいたが、全員で堂々と演技をすることができた。
●お家の人に喜んでもらい、子どもたちも達成感と自信に満ち溢れていた。

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

○夏休みや登下校中に虫を見つけた児童の話を書く場を設け、「虫をさがしたい」「見たい」という思いを高められるようにする。
○虫の本や、秋の葉っぱの本などを学級文庫に用意する。
○夏の虫探しを想起し、虫のいそうな場所を予想したり活動したい場所を見通したりする。
○一人ひとりが行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。
○虫探しの後は、板書で校庭の配置図を簡単に示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかななどを尋ね、夏と秋の虫探しで「同じこと」「違うこと」を挙げ、比べることで季節の違いに気付けるようにする。
○活動後、休み時間にも各自で虫探しに行きよいことにする。

⑤「ダンゴムシは秋にもいたよ。」
「夏にはいなかったセミがいたよ。」
「バッタがいたよ。草を入れておこう。」
「アオスジアゲハがいた！捕まえるときは、そーとね。」
「〇〇さん、捕まえるの上手！」



⑥「たくさん見つけたね。」
「今日の“ピカイチさん”をプリントにかこう。」
友だちの“ピカイチさん”を聞く。
↓
「いろんな虫がいるな。」
「いっぱいいるやん。」

⑦「うまく捕まえられなかったよ。」
「〇〇さん、捕まえるのが上手だね。」
「虫とり名人だね！」
「コツがあるのかな。」
「捕まえ方を聞いてみよう。」

①「夏休みの宿題で、虫図鑑を作ったよ。」
「ぼくは、セミの抜け殻をたくさん見つけたよ。」
「先生がセミの抜け殻をもってきてくれたよ。」
「学校に行く途中、トンボが飛んでたよ。」
「他にもいろんな虫がいますよね。」

⑧「もっと違う場所で虫探ししたいな。」
「山とか行きたいな。」
「かわべ生き物の森！」
「荒神山！」
「公園は？」
「公園なら、すぐに行けるよ。」

*授業時間だけでは、捕まえられなかった子も、休み時間にも虫探しをしてもよいことにしたこと、「～したい」気持ちと活動が継続した。
*虫を見つけた場所を校庭マップで表したことから、「自分もその場所に見つけに行ってみよう」という意欲につながった。

○児童の言葉を基に、約束を確認する。
○見つけた虫、秋の物について、何か例えたり触れたりなどして特徴を捉えている児童に共感し、対話しながら児童なりの気づきを引き出す。
○幼児期やこれまでの経験を基に、自然の様子や特徴について気付いたり予想したりしている児童の発言を認め、全体へと広げていく。
○虫探しの後は、公園の平面図を示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかを尋ね、校庭での虫探しと比べて、どんなことが違っていたか気付けるようにする。また、生き物を見つけた場所に注目し、校庭との共通点も見つけていけるようにする。

④「一人ひとりが行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。」
③「どこを探そうか。」
「一人ひとりが行きたいところに行こう。」
「夏よりもっと時間がほしいな。」
「秋だからトンボがいるかな。」

学校で秋の虫を探そう

③「どこを探そうか。」
「一人ひとりが行きたいところに行こう。」
「夏よりもっと時間がほしいな。」
「秋だからトンボがいるかな。」

④「一人ひとりが行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。」

②夏にはあまり見つけられなかったから、虫探しに行きたいな。

④「一人ひとりが行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。」

*公園から帰った後、「秋のおたからマップ」を作成したことで、学校での虫探しと比較し、「公園の方が虫の種類が多い」「どんぐりや木の葉、落ち葉がいっぱいある」などを発見することができた。虫だけでなく、葉っぱやどんぐりなどの秋の物へ、関心が広がった。

○秋の草花や樹木、虫などの動植物の観察をしたり、どんぐり工作体験をしたりする校外学習（AP）を計画し、事前学習で施設の写真を見て、どんなことができそうか予想する。
○どんぐり工作で作ったものを家族へのお土産として持ち帰り、「もっと作りたいな」「どんぐりで〇〇を作りたいな」という意欲が高まるようにする。

⑩「虫だけでなく、どんぐりや葉っぱも見つけたよ。」
「どんぐり工作、楽しかったね。」
「自分でも作ってみたいな。」

⑪「森のクイズがあるみたい。」
「広いところだから、虫もいっぱいいるはず。」
「どんぐりや葉っぱも拾ってよう。」

○子どものつぶやきを拾い、次の活動へ。子どもの関心が虫から秋の宝物へむかうように誘う。

⑫「公園にもバッタはいたね。」
「草むらが多いから、たくさんいるね。」
⑬「きれいな葉っぱを見つけたよ。」
「木の実や枝もひろったよ。」

もっと大きな公園で秋の「おたから」を探そう

ふり返ろう

⑫「公園にもバッタはいたね。」
「草むらが多いから、たくさんいるね。」
⑬「きれいな葉っぱを見つけたよ。」
「木の実や枝もひろったよ。」

ふり返ろう

⑫「公園にもバッタはいたね。」
「草むらが多いから、たくさんいるね。」
⑬「きれいな葉っぱを見つけたよ。」
「木の実や枝もひろったよ。」



*子どもたちの発した「おたから」という言葉を大切に、素敵なものを見つけたり、集めたり作ったりするワクワク感に繋げていった。
*AP(校外学習)では、限られた数のどんぐりの工作であったため、学校に戻ってから、存分に遊べるよう、材料をたくさん集め準備を進めた。



②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

○園児とともにやるおもちゃまつりでは、お世話を「してあげる」ではなく、「一緒に楽しむ」活動になるよう、園児の気持ちを想像しながら、一緒に楽しめる遊びやおもちゃに改良していけるようにする。
○友だちと遊んだ時と園児と遊んだ時とでは何が違うのか問い、必要なことについて児童が考えられるようにする。
（ルールの変更・簡素化・説明・おもちゃの強度を上げるなど）

○園での秋に親しむ活動を想起しながら学習に臨めるようにし、「もっと楽しくするためにはどうしたらいいかな」と声を掛ける。これまでの経験を生かした工夫が見られた時にはそれを認め、価値付ける。
○「つくる→遊ぶ→振り返り・見通す→つくる→…」という一連の流れで毎時間過ごすことで、見通しをもった活動ができるようにする。
○作りたい物を作って、まずは自分が楽しみ、友だちに自分の作った物で遊んでもらって、「もっとこうしたい」と気付く場となるよう、友だち同士の交流の場を設定する。
○秋の物の不思議さや面白さに気付くことができるよう、自分の思いや考えを友だちと比べ、何度も遊びを試す場を設定する。

②「葉っぱでチョウを作ったよ。」
「葉っぱとどんぐりでお面を作ったよ。」
「どんぐり迷路を作ったよ。」
「木の実ネックレスができたよ。」
「こすりだして、線の模様が出て楽しかったよ。」

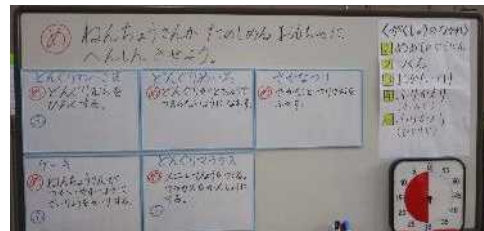


④「〇〇グループの遊びが楽しかったね。」
「ルールを説明してくれて、楽しかったよ。」
「もっと他の人も遊びに来てほしいな。」

②「何でどうやって作る？」
「材料は？」
「広い場所で作りたいな。」

②「迷路を作りたいな。」
「どんぐりを転がしたいな。」
「どんぐり、もっとほしいな。」
「友だちと一緒に作ると楽しいよ！」

②秋の〇〇を使っておもちゃを作って遊びたいな。



④「年長さんも、楽しんでくれてるね。」
「ルールを分かりやすく説明できたよ。」
「一緒に遊ぶと楽しいね。」
「景品を渡したら、喜んでくれたよ。」

⑦「投げる場所を変えて、点数をとりやすくなったよ。」
「壊れやすかったから、テープでしっかりつけて丈夫にしたよ。」
「遊び方を画用紙に書いたよ。」

⑧「看板があったほうが何のお店か、分かりやすいかな。」
「もっと丈夫なおもちゃにしたいな。」
「遊びのルールも変えたほうがいいかな。」
「分かりやすい簡単なルールにしよう。」
「景品を渡したらどうか。」



計画・準備をしよう

④「どうしたらもっと楽しくなるかな。」
「遊びと遊び方、どうする？」
「去年招待してもらったときみたいに、楽しいおもちゃまつりにしたいな。」
「たくさんの人が来てくれるから、広い場所で遊んでもらいたいな。」

どんなことがしたいかな

⑩「釣りやすいように、大きな魚を作ったよ。」
「遊び方を丁寧に説明したら、分かってくれたよ。」
「楽しんで遊んでくれたよ。頑張って準備してよかった。」
「また一緒に遊びたいな。」
「お家の人にもこのおもちゃで遊んでもらいたいな。」



秋の「おたから」で
おもちゃまつりを
しよう

ふり返ろう

秋の「おたから」で
作って遊ぼう

作って遊ぼう

ふり返ろう

- * 子どもの思いを大切にしながら、必要な材料や道具の準備をした。違うグループの友だちのおもちゃでも遊び合いながら、よいものを作っていけるように声掛けを続けた。
- * 秋の物を使ったおもちゃは、個々に小さな物を作ることから始まった。子ども達が、大きな材料に気付いてダイナミックな製作ができるような準備や材料を出すタイミングが少し遅れてしまった。

- * 園児との交流は2回実施できた。1回目の振り返りや反省で、次のおもちゃまつりに向けて、グループ内で相談しながら、作り直したり、おもちゃの数を増やしたりして、相手意識をもって取り組むことができた。
- * 2回目の交流の後、体育館の撤収作業等で慌ただしく、振り返りの時間や、達成感に浸る時間が十分に取れなかった。